

# 蓬萊の玉の枝①

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。  
野山にまじりて竹を取りつつ、  
よろづのことに使ひけり。  
名をば、さぬきのみやつことなむいひける。  
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。  
あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。  
それを見れば、三寸ばかりなる人、  
いとづつくしうてあたり。

## 現代語訳

むかーしむかし竹取の翁と呼ばれる人がいた。  
野山にはいって竹をとって、いろんなことに  
使っていた。その人の名前は さぬきのみやつこ  
といった  
ある日竹をとっているとその竹の中に、根元が光る竹があった。  
不思議に思っ、寄って見てみると、筒の中が光っている。  
それを見ると、9センチ位の人がとてもかわいらしく座っていた。

## 重要語句

よろづのこと↓いろいろなこと  
あやしがりて↓不思議に思っ  
いと↓とても  
うつくし↓かわいい  
あたり↓座っていた